



## 民俗資料館で見たくはばき

小林 峯 夫

落語はテレビで見るよりラジオで聞いた方がおもしろいという人がある。ことばという形のないものを介して、想像をたくましくし、自分の心の中に自由に登場人物や場面・情景を描き出す方がおもしろい。目の前に落語家が見えて、扇子・手拭いを目にしていると想像力のじゃまになるというのである。

分かるような気がする。わたしなんか、ことばを介してたくさんの事物を連想・想像して楽しむことがある。特に方言のような、古い歴史と具体的な人々の生活をその背後に持っていることばは興味深い。

先日くしょうやく」という珍しいことばに出会った。「きのう採ってきたわらび、まだしょうやくもしてないままだけど、よかったら上げましょ」というような文脈の中で使われたことばであった。

あちらこちら調べてみたら、このことばは、「魏志倭人伝」の中に使われているくそうよく澡浴」ということばにつながっていることが分かって驚いた。くそうよくしょうやく」がくそうよくしょうやく」に変化し、更にくしょうやくしょうやく」になったのだという。「倭人伝」の中でくしょうやく澡浴」というのは、近親者の死に会った者がその身に付いている死霊・悪霊のたぐいの汚れたものを川の水できれいに洗い落とすというような意味だと思われる。

わらびについているごみのたぐいの汚れたものをつまみ落したり、洗ったりしてきれいにするという意味で、今でもくしょうやくしょうやく」ということばが生きて使われている地域があるのである。「倭人伝」の時代と生活を切らすことな

く今日までつないできた人々の歴史があったということなのである。そういう歴史を担ったことばを介して、長い長い時間とさまざまな空間を想像力によって埋めてゆくのは実に楽しいロマンチックな営みである。

このように、ことばを介して時代や生活を想像するのに対して、民俗資料館などに陳列された民具のたぐいを介して時代や生活を思い描くことももちろん楽しい。しかし、同じく想像の世界のことであっても、両者にはかなりの相違がある。後者はより現実的な、生活の直接性を帯びている。

かつてわたしは、くはばき」という古いことばを気に入って、自分の歌集名としたりした。ふるさとにくはばき酒を振舞う」ということばがあり、懐しいことばだと思っていた。また、くはばき」というのは昔、旅立つ者がそれをすねに当てて出かけたもの、というようなことは分かっており、旅ということばの持つ或る種のロマンチックなイメージをそのことばの向こうに描いていた。

ところがその後、ある村の民俗資料館ではかからずもそのくはばき」の実物に出会うことがあった。山ぶどうのつるを材料にして編まれた実物のくはばき」を見て、今までこのことばを介して描いていた思い込みは大きく修正されることになった。そこには、厳しい時代の山村に生きた人々の現実——感傷や空想を拒絶した、汗と脂の匂う生活の具体そのものが見えていて、わたしはしばし肅然たる思いに佇立させられたことであった。

(岐阜県高等学校長協会会長)

## 川合遺跡群（飛驒川・木曾川合流点）を掘って

とき 平成4年5月31日

ところ 岐阜県博物館

講師 吉田 英敏 氏

本年度第1回の公開講座を、岐阜県博物館で開催されている特別展「飛驒のあけぼの」の講演会をそれにあてるといって実施しました。

講師の吉田先生は、日本考古学協会会員として幅広く活躍しておられる方で、現在は、主として、飛驒川と木曾川の合流点にあたる可児市の川合遺跡群の調査に携わっておられます。

今回の講演では、川合遺跡群の発掘による最新の成果を、実物資料と16ミリフィルム並びにオーバーヘッドを用いて、考古学の初心者にも理解できるように、懇切丁寧に、かつユーモアをまじえて示されました。

### ◎ 講演要旨

「川合」の地は、飛驒や信州、尾張と特に深い関わりがあるということが判明してきた。

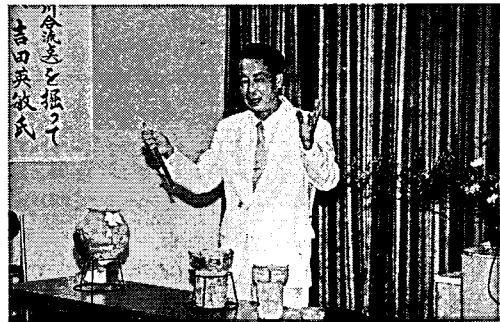
#### 1. 先土器時代

今から約1万3千年ほど前の遺物4点が出土した。近隣の遺跡の石器がほとんど美濃地方独特のチャートであるのに対し、4点はすべて黒曜石である。これらは、木曾川を利用して信州からもたらされたものと思われる。

#### 2. 縄文時代

##### ① 中期後葉の竪穴住居

今から4,300～4,500年ほど前の住居址が19軒分でてきた。関東系の住居址から、死産した子供を入れて住居の入口に埋めたいわゆる「埋甕」が1つの住居址のなかに何箇所もある例が数多く見つかっている。他に、住居の中ほどにある炉及び入口から一番奥に据えつけてある石棒が何箇所あることからして、同一住居跡を利用して何度も住居を建て直していることが分かる。このような住居の建て直しの形式は、木曾川沿いの遺跡及び飛驒の遺跡によく見られる特徴である。これに対し、中濃や西濃の遺跡では、少しずつ位置を横にずらして建て直してい



る。なお、この遺跡から出土した石器に占める黒曜石の割合は70～80%と極めて高く、信州との結びつきの強さを伺わせる。

##### ② 髪飾をつけたと思われる土偶

肩の後ろのあたりに3箇の穴が開いている土偶が出土した。鳥の羽などを挿して髪飾としたのではないと思われる。縄文時代の女性達も美しく装っていたのである。

##### ③ 運ばれてきた滑石（原石）

滑石の原石が出土した。多分、飛驒の上宝から運ばれてきたと思われる。石一つから、飛驒との交流が分かるものである。

##### ④ 残されていた縄文の粘土

土器約30個体分の縄文時代の粘土が出土した。瓦粘土を半分混ぜて野焼きをした。やや白っぽいのが、当時のものにかなり近いものができた。

#### 3. 古墳時代の集落

##### ① ハッチンボ

約15cmぐらいの円柱形の自然石が、一箇所から、床面にピッタリと平らについて、カタカナの「ハ」の字形で8個見つかった。これは、葦や藁を編んでいわゆる「よしづ」を作るときに、縦糸となる4本の縄のそれぞれの両端に付けた重りの石と思われる。常に8個が対で見つかるのでハッチンボという。

##### ② S字状口縁台付甕形土器と東山道

普通、土器は地域別に独特の様式をもっているものであるが、S字状口縁台付甕形土器は濃尾平野の中心地である尾張一之宮を中心として、東山道（大和朝廷の軍隊の東征コース）沿いに



分布し、遠くは群馬県からも出土するという、特異な分布の仕方をしている。この土器が大量に出土した。川合の地が尾張の勢力圏内であったためと思われる。

#### 4. 古墳

##### ①宮ノ脇11号古墳における鳥紐蓋が語るもの

古墳は、形が身分を、大きさが勢力を表している。この古墳は前方後円墳で、極めて身分の高い人の墓である。ここから、蓋に鳥のつまみのついた、高さ1mほどと思われる台付4連壺(部分)が出土した。蓋の上に鳥を乗せる形式は7世紀に流行したものであるが、宮ノ脇のも

のは6世紀前半のものであり、この類いのなかでは最古かつ最大のものである。尾張は鳥と関係が深い土地であり、これも川合の地と尾張との関係を伺わせるものである。

また、この古墳からは、須恵器の円筒埴輪が大量に出土しているが、これも尾張を中心として分布しているものである。

日本書紀の両面宿禰の話からすると、大和の豪族が尾張の軍団を率いて、東山道の本道と飛驒路の分岐点である川合の地に、飛驒攻めの前線基地を置いていたとも考えられる。

##### ②次郎兵衛塚1号墳

7世紀中頃から後半の、30m四方、上下2段、おそらく県下最大の方墳である。極めて身分が高く、かつ勢力の大きな人物の墓であり、尾張の勢力がここまで伸びてきていた例証と思われる。この方墳は、本来の羨道のほかに、左右に各1本の羨道を持っている。そのうちの1本は、方墳の下段の上に小さな方墳を乗せたようになっており、極めて特異なものである。

(事務局 野原 薫)

### 第22回 会員研修会報告

## 博物館資料のコンピューター管理について

第22回研修会を下記の要領で実施した。

#### 〈研修日程〉

平成4年6月4日(木) 13時～15時30分まで  
研修テーマ; 「博物館資料のコンピューター管理について」

#### 研修日程

##### ・13:00～14:00

資料の入力と検索について

担当……内藤記念くすり博物館

野尻佳与子学芸員

伊藤 恭子学芸員

##### ・14:10～15:30

収蔵資料の映像化について

担当……セリオ株式会社・早稲田システム研究所 辻 仁本氏

上堀 弘哉氏

橋 ひろみ氏

参加者: 13名

当日は、遠くは下呂町をはじめ各地から13名の参加者を得て行われ、充実した研修会であった。

コンピューターの活用は、博物館の効率化にとって是非必要なことと痛感した。特に、収蔵資料の映像化は、より高度な管理ができ、来館者向け閲覧システムとしても有効である。

(研修委員長 國光正宏)



## 平成3年度岐阜県博物館協会歳入歳出決算書

前期繰越金	169,902円	支出金	1,289,151円
収入金	1,240,120円	次期繰越金	120,871円
合計	1,410,022円	合計	1,410,022円

### 歳入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	備 考
会 費	553,000	596,000	43,000	県立3館 30,000円 市町村立56館 280,000円 私法人立56館 168,000円 個人会員23名 46,000円 賛助会費(高山市)50,000円 入会金11館 22,000円
補 助 金	640,000	640,000	0	岐阜県 490,000円 岐阜市 150,000円
雑 入	2,000	4,120	2,120	預金利息
前年度より繰越金	169,000	169,902	902	
合 計	1,364,000	1,410,022	46,022	

### 歳出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	残 額	備 考
事務局費	266,000	210,244	55,756	
通信連絡費	126,000	116,820	9,180	
印刷費	30,000	16,480	13,520	
需用費	40,000	16,944	23,056	
表彰費	60,000	60,000	0	
慶弔費	10,000	0	10,000	
機関紙費	350,000	372,641	△ 22,641	第94号 7.31発行
印刷費	215,000	221,000	△ 6,000	第95号 9.30 "
通信連絡費	73,000	111,055	△ 38,055	第96号 12.30 "
取材費	47,000	32,586	14,414	第97号 3.31 "
会議費	15,000	8,000	7,000	
公開講座費	133,000	119,512	13,488	年4回開催
開催費	73,000	76,200	△ 3,200	第48回 5.24開催
印刷費	10,000	0	10,000	第49回 8.5 "
通信連絡費	25,000	16,182	8,818	第50回 10.13 "
会議費	25,000	27,130	△ 2,130	第51回 1.28 "
会員研修会費	60,000	47,886	12,114	年3回開催
開催費	40,000	23,706	16,294	第19回 6.25開催
通信連絡費	20,000	24,180	△ 4,180	第20回 台風のため中止 第21回 11.20開催
三県交流研修費	110,000	110,000	0	当番県 岐阜県
東海博総会費	260,000	259,310	690	当番県 岐阜県
日博協全国大会	52,000	51,598	402	会場 東京都
總會費	73,000	57,960	15,040	5月9日
通信連絡費	25,000	25,000	0	於：岐阜市科学館
食糧費	30,000	30,900	△ 900	
食會費	18,000	2,060	15,940	
常任理事会費	60,000	60,000	0	3月11日
會議費	20,000	20,000	0	於：フジ会館
旅費	40,000	40,000	0	
合 計	1,364,000	1,289,151	74,849	

## 平成4年度 岐阜県博物館協会歳入歳出予算書

### 歳入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
会 費	584,000	553,000	31,000	県 立 3館 30,000円 市町村立 57館 285,000円 私法人立 57館 171,000円 個人会員 22人 44,000円 賛助会費(高山市) 50,000円 入 会 金 2館 4,000円
補 助 金	490,000	640,000	△ 150,000	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑 入	2,000	2,000	0	預金利息
繰 越 金	120,000	169,000	△ 49,000	
合 計	1,196,000	1,364,000	△ 168,000	

### 歳出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
事務局費	265,000	266,000	△ 1,000	
通信連絡費	130,000	126,000	4,000	
印刷費	40,000	30,000	10,000	
需用費	44,000	40,000	4,000	
表彰費	40,000	60,000	△ 20,000	
振替手数料	1,000	0	1,000	
慶弔費	10,000	10,000	0	
機関紙費	445,000	350,000	95,000	機関紙「岐阜の博物館」
印刷費	300,000	215,000	85,000	年4回発行
通信連絡費	80,000	73,000	7,000	(内1回
取材料費	50,000	47,000	3,000	第100回記念誌)
会議費	15,000	15,000	0	
公開講座費	133,000	133,000	0	年4回開催
開催費	73,000	73,000	0	
印刷費	10,000	10,000	0	
通信連絡費	25,000	25,000	0	
会議費	25,000	25,000	0	
会員研修会費	60,000	60,000	0	年3回開催
開催費	40,000	40,000	0	
通信連絡費	20,000	20,000	0	
三県交流研修会費	34,000	110,000	△ 76,000	当番県 三重県
東海博連協総会費	62,000	260,000	△ 198,000	当番県 静岡県
全国博物館大会費	54,000	52,000	2,000	会場 徳島県
総会費	73,000	73,000	0	
通信連絡費	25,000	25,000	0	
食糧費	30,000	30,000	0	
会議費	18,000	18,000	0	
常任理事会費	70,000	60,000	10,000	
会議費	20,000	20,000	0	
旅費	50,000	40,000	10,000	
合 計	1,196,000	1,364,000	△ 168,000	

## 飛驒の山樵館

〒509-42 吉城郡古川町若宮2丁目1-58

TEL 0577-73-3288

JR高山線飛驒古川駅の東側に位置し、下車徒歩2分のところに今春オープンしました。

古川町からは、飛鳥から奈良時代に移る時期の、<sup>かんが</sup>官衙(役所)と考えられる遺構がみつっています。

古来から飛驒は木の国とよばれていますが時代の推移に伴って天然林から人工林へと山の様相が変化し、管理、運営についても機械化がどんどん進んでいます。

古川町では、先人の知恵と技術によって生まれた生活や仕事の道具が散逸するのを防ぎ、未来へ伝承するため、国の有形民俗文化財指定の3,258点を主として、歴史を証する化石や考古資料、古文書などを展示し、併せてレーザーディスクやマルチスライドなど最新映像技術を駆使して分かり易く紹介しています。

内部は数箇所コーナーに分かれ、レーザーディスクによって森林のすばらしさを示し、化石や出土品によって当地が古代海底であった事を証明しています。続いて山の国飛驒において木に携<sup>もよほ</sup>わ<sup>ら</sup>れる人々の仕事や生活道具が並び、古来からの<sup>そまびと</sup>杣人の生活が分かるようになっています。次に、木と深く係わり合う職人(大工など)の道具や桶などの製作過程をモデル人形などで説明し、入会山<sup>いりあいやま</sup>と呼ばれる共有財産の成り立ち



などを歴史資料等によって紹介、続いて山に生きる人々と森に棲む神々の結びつき、祭事について説明、また、色々の用具に手を触れて昔を偲ぶ体験コーナーも併せて紹介しています。

特別展示室では9台のスライド映写機によるマルチ映像にて飛驒の四季を楽しむようになっています。戦前の生活体験者には懐かしく、何事もスイッチ一つで解決できる現代人にとっては、いろいろと考えさせられることの多い施設だと感じました。

一度お出掛けください。

開館時間 午前9時～午後5時

(12月～2月は午後4時30分閉館)

休館日 毎週火曜日

(但し祝日の場合は開館)

入館料 一般300円 小・中学生150円

団体20名以上2割引

※特別展開催時は別途料金

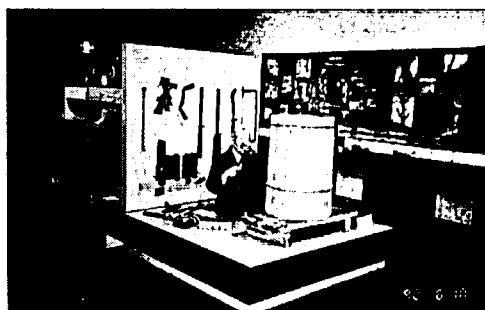
※共通券

- ・起し太鼓の里
- ・飛驒の匠文化館
- ・郷土民芸会館
- ・飛驒の山樵館

一般1000円 高校生900円

小・中学生500円

(日下部民芸館 三島藤男)



平成4年度

## 東海地区博物館連絡協議会

### 日本博物館協会東海支部総会 報告

6月11、12日に静岡市郊外のたちばな会館において、東海5県から104名(本県からは13名)の会員が参加して行われました。

東海地区博物館連絡協議会長(久能山東照宮博物館長)松浦國男さんの開会の挨拶に続き、来賓として参加された、日本博物館協会 毛利専務理事、静岡県教育委員会 高橋文化課長、静岡市 天野市長のお話があり、次に、文化界に対する永年に亘る顕著な貢献を讃えられて、2名の方が表彰を受けられました。

石川良宣さん

(前岐阜県文化財保護協会会長—岐阜県)

川幡留司さん

(三溪園事業課長—神奈川県)

続いて、議事に入り、平成4年度事業計画並びに予算(案)等について提案があり承認されました。

第1日目の最後は講演会です。「生涯学習社会における博物館・美術館のありかた」というテーマで、静岡大学教育学部 馬居政幸助教授の講演がありました。“博物館を含め、全ての教育機関が、学ぶ側になつて様々なものを考えているか、プログラムを作っているか、ニーズに応える、使っていただくという視点を持っているかどうか”が生涯学習社会への移行期に際しての課題であると思います。これは貴重なもの、高価なものであるから、見るに値する、学ぶに値するものであると、一方的に価値を押し付け

るだけで、果たして多様化した人々の関心に耐えることができるでしょうか。何を見せるかという工夫と同等、むしろそれ以上に、どの様に見せるかという表現の仕方を工夫し、それを見ることが日常生活を営む普通の人々、子供たちにとってどういう意味を持つかを考えることが大切です。”と熱意を込めてお話になりました。

第2日目は静岡県内の三つの博物館施設を視察しました。

清水市三保半島の先端にある東海大学社会教育センターは、20万㎡の敷地の中に海洋科学博物館、人体科学博物館、自然史博物館、サッカー場、野球場など様々な施設が巨大な黒松林に囲まれて点在しています。その内の海洋科学博物館を詳しく見学しました。六百トンの容量を誇る巨大な海洋水槽、美しい円柱水槽など各種の水槽の中を泳ぐ350種2万匹の水棲生物、珍しい深海魚リュウグウノツカイの標本などを見ることができる水族館のコーナー。海の物理を楽しむながら学べるマリンサイエンスホール。海の生物の動きを模した様々な機械生物を見ることが出来る、ロボット工学の分野で大変高名な機械水族館のコーナー。さらには世界初の立体ハイビジョンシアター。大きなイカやイトマキエイがすぐ目の前を泳いでいるように見えます。

次に登呂公園の一隅にある市立芹沢圭介美術館は、染色作家であった芹沢氏の作品と収集品とを収蔵展示する千㎡程の美術館ですが、最初に驚くのは建物自体の趣味の良さです。大きな白い四角い石積みの外壁には所々蔦が絡まり、内部は太い白木の組天井を持つ展示室が十室位に細分されており、一部屋ごとに趣を変えながら全体として落ち着いた雰囲気醸し出しています。その中にある芹沢氏の作品はクレーの絵を想わせるような想像力豊かな意匠と鮮やかな配色で、見る人を別世界へと誘います。

最後の市立登呂博物館は、出土品の背景に広



がる古代人の生活をより印象的に理解させるために、博物館の職員の方が描かれた絵が併せて展示しており、学芸員の方のお話にも社会教育施設としてのより良い展示方法を探求してみえる様子が感じられました。

(事務局 武田正雄)

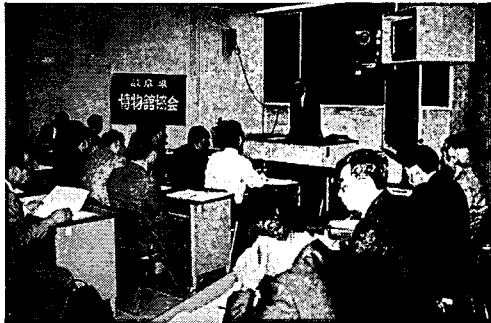


## 県内ニュース

### ◎ 岐阜県博物館協会総会開かる

平成4年度通常総会が5月14日(木)岐阜県博物館で開催され、協会の役員の一部が次のとおり選任されました。

- 名誉会長 梶原 拓(岐阜県知事)
- 会 長 蒔田 浩(岐阜市長)
- 副会長 日下部尚(高山市長)  
青木允夫(内藤記念くすり博)  
篠田幸男(岐阜県博)



### ◎ 岐博協公開講座・

#### 会員研修会のご案内

- ★第54回公開講座 10月2日(金)  
会場 大垣市サイトピアセンター  
内容 大垣と輪中  
講師 郷土史家 清水春一氏
- ★第55回公開講座 平成5年2月5日(金)  
会場 内藤記念くすり博物館  
内容 私達の日常生活に生かす薬用植物  
講師 内藤記念くすり博物館  
薬用植物園長 逸見誠三郎氏
- ★第23回会員研修会 9月29日(木)～30日(木)  
会場 郡上八幡地域  
内容 奥美濃地区を例とした地域博物館

#### のあり方

★第24回会員研修会 12月4日(金)

会場 岐阜県博物館  
内容 資料の保存のしかた

### ◎ 新入館・園紹介

#### ○飛驒の山樵館

〒509-42 吉城郡古川町若宮2丁目1-58

TEL 0577-73-3288

代表者 蒲 嘉彦

開館日 平成4年4月1日

#### ○久瀬村民俗資料館

〒501-07 揖斐郡久瀬村東津汲

TEL 0585-54-2111

(久瀬村教育委員会)

代表者 高橋 毅

開館日 昭和60年12月20日

### 編集後記

平成4年度第1号をお届けします。  
5月14日に開催されました総会で、平成4・5年度の機関紙委員が選任されました。皆さんのご支援、ご協力をお願いします。  
委員長 安田 守(岐阜県博物館)  
委員 今津利治(岐阜県博物館)  
横田 宏(岐阜市歴史博物館)  
野尻佳与子(内藤記念くすり博物館)  
斎藤尚子(斎藤美術館)  
加藤よね子(岐阜県陶磁資料館)  
三島藤男(日下部民芸館)  
水口登美子(高山屋台会館)